

世界経済見通し

IMF、2010年の世界経済見通しを約4%に上方修正



キャプション: 風力タービンの検査をする中国四川省の労働者。中国経済は今年、10%の成長が見込まれている。(写真: Liu Zhongjun/ Xinhua)

IMF サーベイ・オンライン
2010年1月26日

- 世界経済は回復するも、先進国・地域経済の回復は緩慢
- 新興市場国・地域経済、世界経済の景気後退局面からの回復を先導
- 回復の足取りが確固としたものになるまで、刺激策は継続を

国際通貨基金 (IMF) は世界経済の見通しについて、2年間に及ぶ危機の後当初の予測以上の速さで回復しており、世界成長率は2009年のマイナス成長から脱し、今年は3.9%の成長が見込まれるとの見解を示した。IMFは同時に世界の金融状況に関する最新の見通しも発表した。

国際通貨基金 (IMF) は最新の見通しを発表し、2年間に及ぶ危機で打撃を受けた世界経済は、当初の予測以上の速さで回復しており、世界成長率は2009年のマイナス成長から脱し、今年は3.9%、2011年は4.3%の成長が見込まれるとした。

IMFは1月26日に発表した最新の[世界経済見通し](#)の中で、回復の歩調は世界で異なっており、アジアが先導している新興市場国・地域では比較的力強い成長が見られる一方、先進国・地域市場では依然緩慢であり、政府による刺激策に未だ依存していると指摘した。

オリビエ・ブランシャール IMF チーフ・エコノミストは、IMF のビデオ・インタビューで「当面経済回復は、政策決定・政策対応に大きく左右されることになる。問題は、いつ民間需要が回復し政府による刺激策に取って代わるかということだ。現段階では良いが、しかし1年後には大きな問題となるだろう」と述べた。

IMF のドミニク・ストロスカーン 専務理事は、危機対策が時期尚早に解消された場合には、景気後退へ逆戻りする恐れがあると[警告](#)している。

IMF は世界経済成長率を、2009年10月の見通しから0.75%ポイント上方修正した。

リスク選好が回復

IMFは最新の世界経済見通しと共に、世界の金融状況の最新の分析を示した[国際金融安定性報告書 \(GFSR\)](#) も発表した。同報告書によると、経済状況が好転し政府が広範な政策措置を講じたことを受け、金融市場は昨年3月の最低水準から持ち直した。

IMFのホセ・ビニャルス金融資本市場局長は「最近のセルオフ（売り浴びせ）にもかかわらず、リスク選好は戻り、株式市場は好転し、資本市場が再び動き始めた」と述べた。

その一方で IMF は最新の GFSR の中で、政策当局者は、自国の経済及び金融市場の崩壊の回避に向け前例の無い規模で行った、金融・財政・金融部門への支援の解消を探るなかで、依然として大きな課題に直面していると指摘している。

力強い米国の消費

WEO の見通しによると、先進国・地域では企業在庫の回復が始まり、予測以上に米国の消費が力強かったことを背景に信頼が回復した。またインフレも抑制される見込みである。しかし高い失業率、増大する公的債務、そして一部の国で見受けられる弱い家計のバランスシートが、経済が回復する上での更なる課題となっている。

IMF の報告書は、刺激策並びに危機対策を解消するにあたり、各国の回復のペースが異なることをふまえた上で、対応することが肝要だと指摘した。

財政政策に関しては、景気の回復が未だに脆弱であることから、当面、経済活動を支えるべきであり、2010年に予定している刺激策は十全に実施される必要がある。しかし、財政の持続性に関する懸念が高まっていることから、各国が出口戦略を構築、説明することが求められる。

金融部門の再建

先進国並びに大きな打撃を受けた新興国では、金融部門の再建を継続することが依然として喫緊の課題である。これらの国では、今後も銀行の不良資産処理及び再編に取り組むことが求められる。金融部門への支援策は、段階的に解消されるべきである。例えば、事態の改善とともに、こういった施策が魅力的な選択肢とならないようにするなどして、解消することも可能であろう。

政策当局者は、金融部門をより実効的且つ抵抗力のあるものにする一方で、今後の不安定要素を取り除き、金融危機が再来した場合の対応策を再構築するという観点から、金融部門の改革に大胆に取り組む必要があるだろう。

新興国の中には資本流入の急増への対応策に追われる国もでてくるだろう。マクロプラデンシャル政策によりリスクの蓄積を抑制し、初期の段階でバブルの危険性に対処することが可能であるといえる。

IMF 最新見通し

(前年比変化率、パーセント)

	2008	2009	見通し		2009年10月の WEO からの変化	
			2010	2011	2010	2011
世界経済成長率	3.0	-0.8	3.9	4.3	0.8	0.1
先進国・地域	0.5	-3.2	2.1	2.4	0.8	-0.1
米国	0.4	-2.5	2.7	2.4	1.2	-0.4
ユーロ圏	0.6	-3.9	1.0	1.6	0.7	0.3
ドイツ	1.2	-4.8	1.5	1.9	1.2	0.4
フランス	0.3	-2.3	1.4	1.7	0.5	-0.1
イタリア	-1.0	-4.8	1.0	1.3	0.8	0.6
スペイン	0.9	-3.6	-0.6	0.9	0.1	0.0
日本	-1.2	-5.3	1.7	2.2	0.0	-0.2
イギリス	0.5	-4.8	1.3	2.7	0.4	0.2
カナダ	0.4	-2.6	2.6	3.6	0.5	0.0
その他先進国・地域	1.7	-1.3	3.3	3.6	0.7	-0.1
新興工業経済地域(アジア NIEs)	1.7	-1.2	4.8	4.7	1.2	0.0
新興市場および途上国・地域	6.1	2.1	6.0	6.3	0.9	0.2
アフリカ	5.2	1.9	4.3	5.3	0.3	0.1
サブサハラ地域	5.6	1.6	4.3	5.5	0.2	0.0
中央および東ヨーロッパ	3.1	-4.3	2.0	3.7	0.2	-0.1
独立国家共同体	5.5	-7.5	3.8	4.0	1.7	0.4
ロシア	5.6	-9.0	3.6	3.4	2.1	0.4
除ロシア	5.3	-3.9	4.3	5.1	0.7	0.1
アジアの発展途上国	7.9	6.5	8.4	8.4	1.1	0.3
中国	9.6	8.7	10.0	9.7	1.0	0.0
インド	7.3	5.6	7.7	7.8	1.3	0.5
ASEAN-5 ¹	4.7	1.3	4.7	5.3	0.7	0.6
中東	5.3	2.2	4.5	4.8	0.3	0.2
西半球	4.2	-2.3	3.7	3.8	0.8	0.1
ブラジル	5.1	-0.4	4.7	3.7	1.2	0.2
メキシコ	1.3	-6.8	4.0	4.7	0.7	-0.2

出典:IMF 世界経済見通し(2010年1月)

¹インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム